

大腸がん治療における漢方薬の役割

社会医療法人生長会 府中病院 外科副部長 内間 恭武 先生



1997年 大阪医科大学 卒業
同 年 大阪市立大学医学部 第1外科(現・腫瘍外科) 入局
2003年 大阪市立大学大学院 医学博士課程 外科学1 修了
同 年 京丹後市立弥栄病院 外科部長兼診療部長
2006年 社会医療法人生長会 府中病院 外科医長
2010年 同 外科副部長

がん治療では根治的治療のみならず、補助化学療法の有害事象を軽減させ、いかに治療を継続するかが重要である。そして、補助化学療法の支持療法としての漢方薬の役割に大きな期待が寄せられている。今回、下部消化管領域のがん治療の最前線で活躍され、過去10余年にわたり漢方薬を効果的に臨床応用されている府中病院外科副部長の内間恭武先生に、最先端の大腸がん治療を実施する際の漢方薬の使用例と有用性についてうかがった。

泉州二次医療圏のがん診療拠点病院として

1955年に設立した当院は現在、大阪府南部(泉州地域)の急性期医療を担う中核病院として、高度かつ専門性の高い医療を提供しています。特に当院ではがん治療の実績が豊富であり、2009年には「大阪府がん診療拠点病院」に指定されました。現在、10名の外科医が年間約870件の手術を行っていますが、そのうちの約130件が大腸がんの手術です。

また当院は、消化器内科の診療体制も充実しており、高度な内視鏡的治療を提供できることから地域の医療機関からの紹介患者さんも多くいらっしゃいます。当科は消化器内科をはじめ他診療科とも密に連携していますので、外科の適応の患者さんは消化器内科から速やかに当科に紹介されます。このように、当院の手術件数は年々増加傾向にあります。

また、診療だけでなく、若手医師の育成にも注力しており、日本内視鏡外科学会技術認定などの資格取得や技術と知識のバックアップ体制の充実にも努めています。

大腸がんの診断に必要な検査とは

わが国における大腸がんの死亡者数は男性は肺がん、胃がんに次いで第3位、女性では第1位であり、しかもその

数は年々増加しています。この背景には、食生活の欧米化やメタボリックシンドロームの増加などが挙げられます。

大腸がんの発症初期は自覚症状が少ないことから、早期発見のためには定期的な検診が必要です。大腸がん検診では便潜血検査を行いますが、便潜血陽性の場合には他の下部消化管疾患との鑑別を目的に注腸X線検査、大腸内視鏡検査を行います。がんの状態の観察やStageの判定、再発・転移の有無の確認には腹部超音波検査、CT検査、MRI検査を行い、これらの結果をもとに治療方針を決定しています。

大腸がんの標準治療と漢方薬の位置づけ

当院における大腸がんの治療は、Stage0、I(軽度浸潤)は基本的に消化器内科医が内視鏡治療を行い、StageⅢまでの治療は『大腸癌治療ガイドライン』に基づいた手術療法を行っています。他臓器への転移があるStageⅣ以降は、年4回更新される『NCCN ガイドライン』*の最新のデータに基づいた治療を行っています。

すべての患者さんに告知することで、患者さんにも積極的に治療に参加していただきます。そのため手術を施行するかどうかはもちろんのこと、補助療法や抗がん剤治療を行う場合でも、患者さんと相談のうえで治療を進めます。

主治医には患者さんに最良の治療を提供したいという思いがありますから、使用する薬剤も西洋薬・漢方薬を問わず、エビデンスがあれば積極的に使用すべきと考えています。

大腸がん治療における漢方薬の応用例

私が最初に出会った漢方薬は、大建中湯です。まだ研修医のころでしたが、術後イレウスに有効であるとの報告を読んで、実際に術後のイレウス管挿入後に大建中湯を注入してみました。その結果、腸管蠕動運動が亢進されてイレウスが改善したのです。

この他にも私は、大腸がん治療において術後の合併症予防や放射線療法に伴う副作用対策など、補完目的で漢方薬を使用しています。化学療法は副作用との戦いであり、特にStageⅣの化学療法では強い副作用が出現しますから、副作用の辛さに耐えられずに治療を断念することだけは避けたいと考えています。その一つに、イリノテカン投与時にみられる遅発性下痢に対する半夏瀉心湯があります。

また、漢方薬は西洋薬の副作用の発現を見据えた予防的な使い方ができることも大きな魅力の一つです。たとえばカペシタビンの服用時に手足症候群が高率に発現しますが、投与前から越婢加朮湯を予防投与することで、手足症候群の発現を軽減させる可能性があります。患者さんの負担が少しでもなくなれば化学療法の長期継続が可能になり、根治や延命につながります。

表 がん治療および消化器外科で用いられる漢方薬

漢方処方	症状と効果
大建中湯	術後イレウスの予防 がん化学療法中の便秘の改善
牛車腎気丸	がん化学療法中のしびれの軽減
半夏瀉心湯	がん化学療法中の下痢の改善 (主にイリノテカン)
乙字湯	便をやわらかくして、痔術後の排便時疼痛を軽減
柴苓湯	がん化学療法中の手足症候群の軽減
補中益気湯	術後の全身倦怠感の改善 がん化学療法中の全身倦怠感の改善
越婢加朮湯	がん化学療法中の手足症候群の軽減 (主にカペシタビン)

患者さんが服用しやすい漢方薬への期待

このように、最先端の大腸がん治療において、漢方薬の出番は非常に多くありますが、少なからず課題があることも事実です。



処方した薬剤を患者さんに確実に服用していただかなければ何の意味もありませんが、実際には味覚障害や嘔気・嘔吐の副作用がある患者さんでは、漢方薬特有の味やにおいが気になって服用しづらいといったことがあります。主治医が推奨する治療法ですから、患者さんも受け入れたい気持ちが強いと思いますので、味やにおいが気にならず、比較的服用しやすい錠剤など剤型の選択肢が増えることを期待しています。

漢方治療の裾野が広がることを期待したい

西洋医学に軸足を置いて治療をされている多くの先生方にとって、漢方薬の使用は敷居の高いもののように感じてもらえると思います。しかし、漢方薬のエビデンスが蓄積され、有用性がさらに示されれば、西洋薬に代わるもの、あるいは西洋薬の効果を補完するものとして漢方薬に興味を持たれる先生も増えるのではないかと思います。

また、がん治療を受ける患者さんは費用負担も大きいため、治療上の支障になることも少なくありません。そのような患者さんに比較的安価な漢方薬が処方されれば経済的な負担が少しでも軽くなり、治療に専念していただけるかもしれません。

漢方薬にはこのような側面があることから、多くの先生に漢方薬を積極的に活用されることを期待したいと思っています。

※National Comprehensive Cancer Network Clinical Practice Guidelines in Oncology™.

アメリカを代表するがんセンター(21施設)が非営利目的で結成したガイドライン策定組織(National Comprehensive Cancer Network)が作成し、ウェブサイトにて公開している。大腸がんについては、結腸、直腸、肛門の3部位とスクリーニングに分けられている。
<http://www.tri-kobe.org/nccn/index.html>